

## 経済産業省への追加説明依頼事項

### 【戦略や計画等について】

日本のエネルギー戦略（全エネルギー）の中での太陽光発電の位置付け（期待）と二酸化炭素削減への効果についての定量的な説明。

これまで実施したフィールドテスト事業の市場開拓効果の定量的評価の有無。評価を実施した場合の手法とその結果（実績がない場合は今後の予定。）

また、これまで実施したフィールドテスト事業によって得られた成果の総括（市場開拓効果だけではなく、例えば、トラブルがどの程度減ったのか、あるいはコスト低減にどの程度寄与したのか等、その他の効果をできるだけ定量的に。）

本フィールドテスト事業の評価基準（何をもちて成功を評価するのか。何が達成されれば、その後産業用・公共用システムとして普及していくのか。）

本フィールドテスト事業による具体的な発電システムの規模と普及への効果。

今後の太陽エネルギー利用の普及促進に向けての具体的な戦略。また、本事業の事業計画におけるその戦略の反映状況。（単なる費用負担を超えた戦略が当該事業の計画上あるのか。）

ニューサンシャイン計画における戸建向けの補助金との計画や成果面での比較（投入金額の年度毎の変化と市場拡大の状況等）

第1回検討会資料2 - 1のp .1 2のコストカーブについて、従来の予測との差異。

グリーン電力基金の低下に対する抑制の効果（関係など）

### 【事業内容等について】

フィールドテスト事業として、テストを行う具体的な内容。研究的側面があるとするればその具体的な内容（単なる設置のための補助ではテスト事業とは言い難い。）

特定の事業者等に対して補助金を支給して太陽電池を敷設することの公平性・透明性・妥当性。（具体的にどのような採択や評価スキームとなっているか（予定）を含め。）

補助を受けた事業者の便益の算出根拠。また、公的資金の使途として公共（パブリック）への便益（リターン）の妥当性など、単に装置メーカーへの支援ではないことの根拠（例えば、装置の原価の適正性について検証されているかなど。）

国有地や国有財産（施設）を対象として本事業を実施することの可能性。（普及のための社会的実験・検証であれば、国有施設を対象としてもその成果は活用でき、また、新たな社会資本としても期待できるのではないか。）

補助対象の内訳の具体的イメージ。

（例：壁材一体型 / 屋根材一体型 / 局面設置等の比、  
地域別、用途別、  
結晶Si系 / アモルファス系 / 色素増感等の新デバイスの比 など）

新技術開発の検証のみが対象か、それとも既存技術の検証も対象か、後者を含む場合、これらの比率。

開発途上国等、海外における実証事業も対象か、その場合の規模。